

平成28年度

第3回 市政モニターアンケート報告書

新居浜市企画部秘書広報課

1 アンケートの概要

調査対象者	平成28年度 市政モニター 181人
調査期間	平成28年12月1日(木)～平成28年12月15日(木)
調査方法	郵送またはインターネット
テーマ	⑦ 防災意識について ⑧ これからの新居浜市のまちづくりについて
回答率	

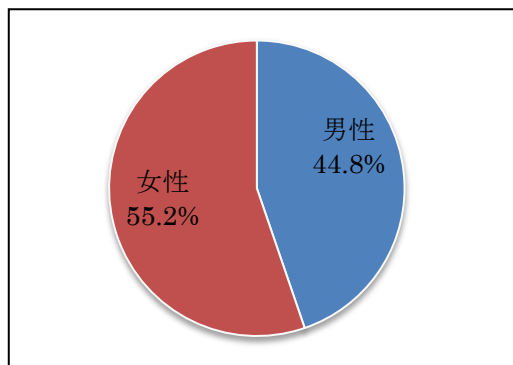
テーマ	モニター数(人)	回答者数(人)	回答率
⑦	181	154	85.1%
⑧	181	151	83.4%

2 市政モニター内訳(※平成28年12月1日時点)

<性別>

(単位:人)

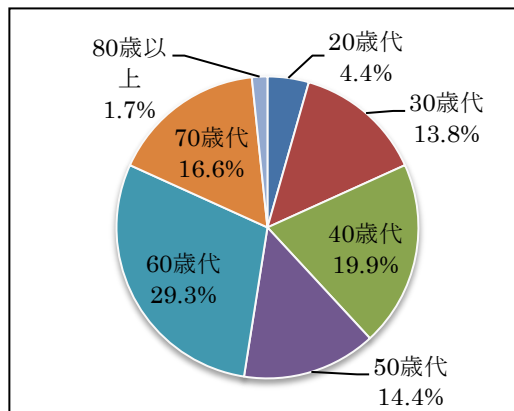
男性	81 (44.8%)
女性	100 (55.2%)
合計	181 (100.0%)



<年代別>

(単位:人)

	男性	女性	合計
20歳代	0	8	8 (4.4%)
30歳代	7	18	25 (13.8%)
40歳代	11	25	36 (19.9%)
50歳代	8	18	26 (14.4%)
60歳代	35	18	53 (29.3%)
70歳代	18	12	30 (16.6%)
80歳以上	2	1	3 (1.7%)



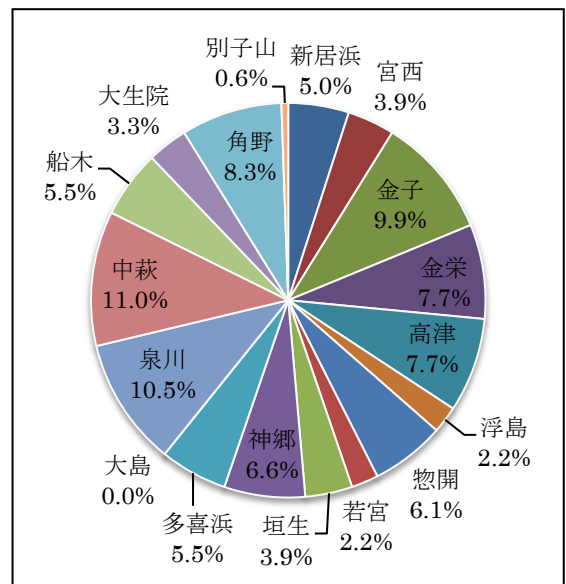
※年齢は平成28年4月1日時点

<居住地域(小学校校区)別>

(単位:人)

	男性	女性	合計
新居浜	2	7	9 (5.0%)
宮西	2	5	7 (3.9%)
金子	5	13	18 (9.9%)
金栄	6	8	14 (7.7%)

高津	7	7	14 (7.7%)
浮島	3	1	4 (2.2%)
惣開	3	8	11 (6.1%)
若宮	3	1	4 (2.2%)
垣生	2	5	7 (3.9%)
神郷	7	5	12 (6.6%)
多喜浜	4	6	10 (5.5%)
大島	0	0	0 (0.0%)
泉川	14	5	19 (10.5%)
中萩	4	16	20 (11.0%)
船木	5	5	10 (5.5%)
大生院	4	2	6 (3.3%)
角野	9	6	15 (8.3%)
別子山	1	0	1 (0.6%)



〈回答方法 種別〉

(単位：人)

郵送モニター	93 (51.4%)
Eメールモニター	88 (48.6%)
合計	181 (100.0%)

〈選任方法 種別〉

(単位：人)

公民館推薦	97 (53.6%)
公募	84 (46.4%)
合計	181 (100.0%)

※数値は、単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は一致しない場合があります。

3 調査結果

テーマ⑦ 防災意識について

【調査趣旨】

今年4月に熊本地震、また10月に鳥取中部地震などの災害が発生しています。

新居浜市ではこれらの地震による被害はありませんでしたが、当地域でも大きな影響が考えられる南海トラフ地震が30年以内に70%の確率で発生すると言われています。

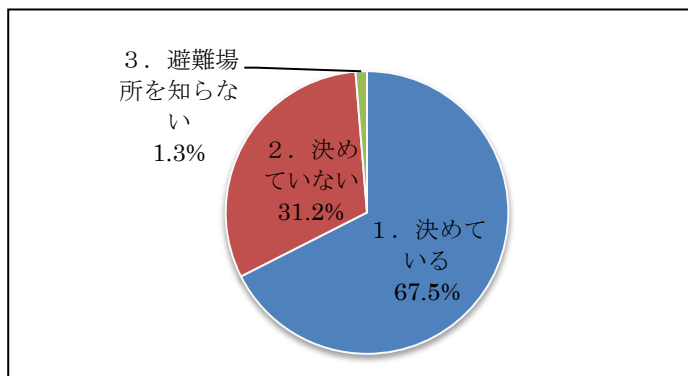
そこで、本アンケートで市民の皆さまの防災意識等について調査し、今後の防災行政に役立てていきたいと考えています。

(担当課：防災安全課)

(※問1はモニター属性特定のための設問であり、省略)

問2. 災害発生時、ご家族で避難場所を決めていますか。(1つ選択)

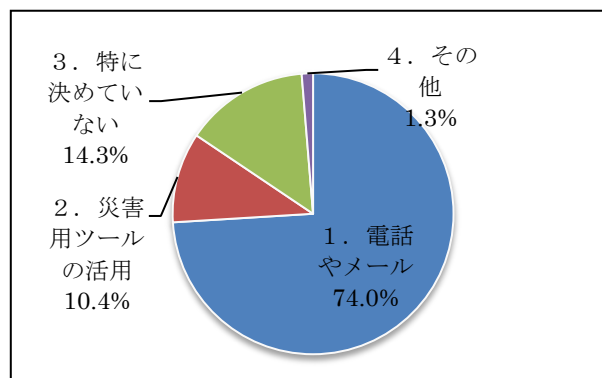
1. 決めている	104人
2. 決めていない	48人
3. 避難場所を知らない	2人
合計	154人



「1. 決めている」と答えた方が全体の67.5%となっています。

問3. ご家族やご友人の安否確認には、主にどのような手段を活用することを想定していますか。(1つ選択)

1. 電話やメール	114人
2. 災害用ツール（災害伝言板など）の活用	16人
3. 特に決めていない	22人
4. その他	2人
合計	154人



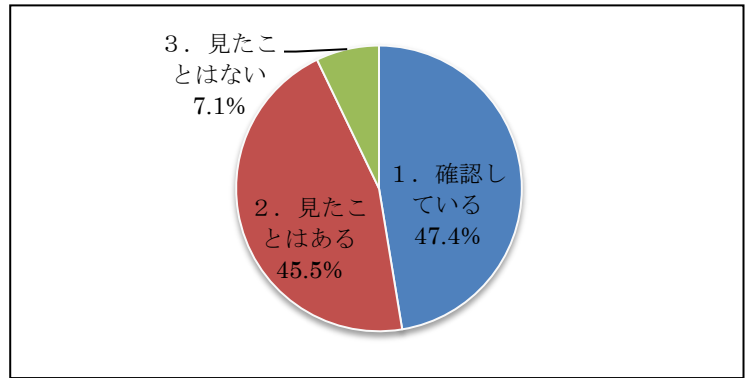
「1. 電話やメール」と答えた方が最も多く（74.0%）、全体の7割以上を占めています。

問4. 問3で「4. その他」と答えた方にお伺いします。想定している安否確認の手段を教えてください。(自由記入)

- ・「1. 電話やメール」と、安全小旗も活用する。
- ・避難先を決めているので、安否確認の手段は特に決めていない。
- ・「1. 電話やメール」と「2. 災害用ツール（災害伝言板など）」両方を活用する。
- ・動ける範囲であれば、行って確認する。

問5. 新居浜市のハザードマップ（地震や洪水などの災害が起きたときの危険箇所や避難場所を地図化したもの）で災害時の対応等を確認したことがありますか。(1つ選択)

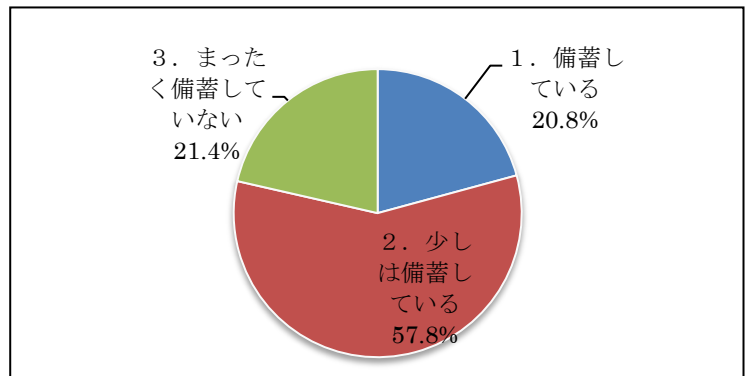
1. 確認している	73 人
2. 見たことはある	70 人
3. 見たことはない	11 人
合計	154 人



「1. 確認している」(47.4%)、「2. 見たことはある」(45.5%)と答えた方がほぼ同数で、合わせると、ハザードマップを見たことがある方は全体の9割以上となっています。

問6. 災害に備え、非常食（食料・水）、日常生活品などの備蓄をしていますか。（1つ選択）

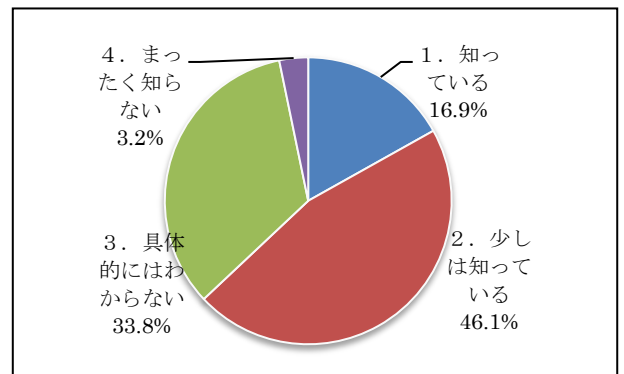
1. 備蓄している	32 人
2. 少しは備蓄している	89 人
3. まったく備蓄していない	33 人
合計	154 人



「2. 少しは備蓄している」と答えた方が最も多く(57.8%)、次いで「3. まったく備蓄していない」(21.4%)が多くなっています。「1. 備蓄している」(20.8%)と答えた方は全体の2割程度となっています。

問7. あなたのご家族が災害後、生活する上で、どういった物をどのくらい備蓄すればよいか知っていますか。（1つ選択）

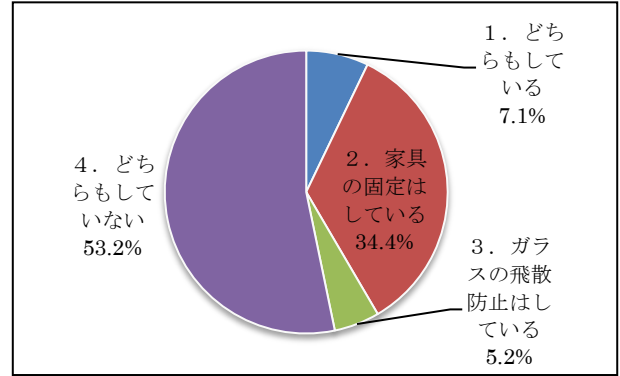
1. 知っている	26 人
2. 少しは知っている	71 人
3. 備蓄しなければならないのは知っているが、具体的にはわからない	52 人
4. まったく知らない	5 人
合計	154 人



「2. 少しは知っている」と答えた方が最も多く(46.1%)、次いで、「3. 備蓄しなければならないのは知っているが、具体的にはわからない」(33.8%)となっています。

問 8. 地震対策として、家具の固定やガラスの飛散防止などの対策をしていますか。(1つ選択)

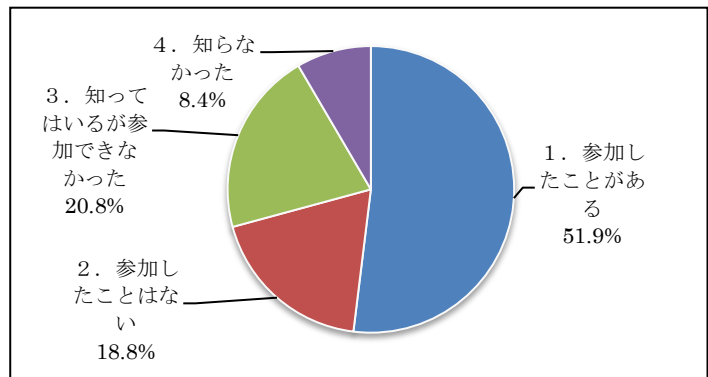
1. どちらもしている	11 人
2. 家具の固定はしているが、ガラスの飛散防止はしていない	53 人
3. ガラスの飛散防止はしているが、家具の固定はしていない	8 人
4. どちらもしていない	82 人
合計	154 人



「4. どちらもしていない」と答えた方が最も多く (53.2%)、全体の 5 割以上を占めています。次いで、「2. 家具の固定はしているが、ガラスの飛散防止はしていない」(34.4%) が多くなっています。

問 9. 昨年度から、各小学校単位で、自治会等が中心となって防災訓練を実施していますが、参加したことがありますか。(1つ選択)

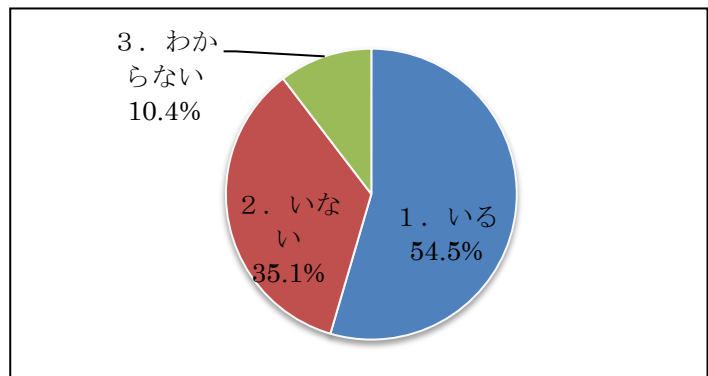
1. 参加したことがある	80 人
2. 参加したことはない	29 人
3. 知っているが参加できなかった	32 人
4. 知らなかった	13 人
合計	154 人



「1. 参加したことがある」と答えた方が最も多く (51.9%)、全体の 5 割以上を占めています。

問 10. ご家族やご近所等に、高齢者や障がいを持っている方など、避難に援護が必要な方がいらっしゃいますか。(1つ選択)

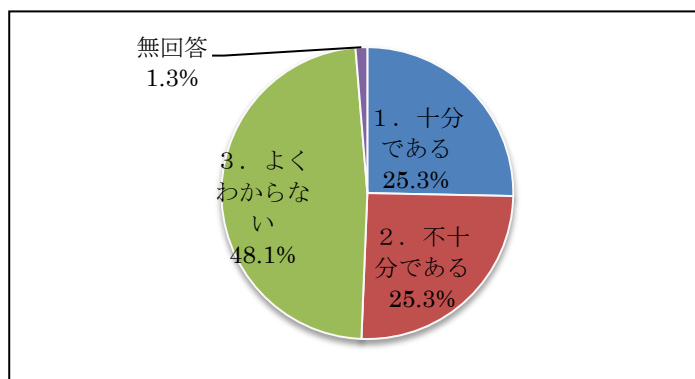
1. いる	84 人
2. いない	54 人
3. わからない	16 人
合計	154 人



「1. いる」と答えた方 (54.5%) が全体の 5 割を超えており、多くの方が、避難の際に援護が必要な方が身近にいることを認識していることがわかりました。

問 1 1. 行政からの防災に関する情報は十分だと思いますか。(1つ選択)

1. 十分である	39人
2. 不十分である	39人
3. よくわからない	74人
無回答	2人
合計	154人



「3. よくわからない」(48.1%)と答えた方が最も多くなっています。

「2. 不十分である」(25.3%)と答えた方が、「1. 十分である」(25.3%)と答えた方と同数となっており、多くの方が行政からの防災に関する情報が十分でないと感じていることがわかりました。

問 1 2. 問 1 1 で「2. 不十分である」と答えた方にお伺いします。具体的に、どのような情報が必要ですか。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

- ・家の耐震対策と補助制度、避難所情報（どこに逃げればよいか）
- ・実際に災害が発生した場合に、災害の種類にもよるが、具体的に何をしたらよいか。
- ・自治会ごとの受け入れ可能数など、もし何かあった時にどこに行けばいいのかが知りたい。
- ・校区内に避難場所が複数ある場合の使い分けなどがわからない。自分で好きな場所を選んでもよいのか、住所によって利用できる場所が違うのか。
- ・①緊急避難先の運用の情報（学校の門は開いているのか、どの門から入るのか等）、②市の緊急災害備蓄品はどれくらいあるのか、③要支援者の避難のための取り組みが提唱されているが、要支援者のリストがない。調査して、地域の民生委員・社会福祉協議会支部・公民館へは知らせておくべき。
- ・避難場所を具体的に指示してほしい。当然、自分自身で考えるべきだが、専門的な意見もほしい。
- ・必要最低限、避難時にこれだけは各自で持って来てほしいものをテレビ、ラジオで提示するなど。
- ・経済的かつ効果的で、市民が興味を持って取り組めるような情報。皆、防災に興味はあるが、どう取り組めばよいかわからない。
- ・各家庭に防災に関するわかりやすい小冊子を配布する。
- ・ハザードマップのことを知らない、関心がない人が多い。原発に何かあった時の新居浜市の安全性がわからない。
- ・Jアラート等の放送は、最近の気密性の高い住宅事情ではよく聞き取れないため、各世帯の希望者には住民の一部負担で、有線放送で情報を入手できる方法を考えてほしい。
- ・行政からの防災放送は、冬期にはよく注意していないと聞こえづらい時がある。
- ・防災放送は、風雨の時は健常者でも聞き取りにくいことがあります。高齢者や耳の不自由な方への対策が必要ではないでしょうか。
- ・昼間の防災訓練は行ったことがあるが、夜も行った方がいいと思う。地震はいつ来るかわからないので。
- ・具体的な避難訓練（避難ルートの実施訓練）がない。問 9 の防災訓練は避難後の訓練で、避難訓練ではない。どこの家が避難済みか判別できないし、避難場所の特定もないので、不十分だと思う。
- ・各地区の防災組織がよくわからず、情報もない状態だと思う。

問 1 3. 身近で大地震が起きたと仮定した場合に、あなたが一番心配なことは何ですか。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

【家族の安否とその確認方法】

- ・家族の安否
- ・子どもたちが離れていた場合（幼稚園など）の連絡方法等
- ・家族が離れているときの、連絡がうまく取れるかが一番心配。

【住宅の倒壊、損壊】

- ・古い家やブロック塀の倒壊
- ・築後50年経過しているので、大地震に耐えられず、家屋の倒壊が考えられます。仮設住宅かどこかの施設に仮住まいになるのが心配です。

【ライフライン（電気、ガス、水道）の確保】

- ・電気、水などの復旧
- ・ライフラインのストップ

【津波の発生と対応】

- ・津波発生時の逃げ方、逃げ場所
- ・津波が起きた時に車で移動するか、歩いて移動するか、迷う。

【避難先までの移動】

- ・近隣は若い人がおらず、高齢者がほとんどです。避難路が気になります。
- ・家族や犬の避難が無事できるかが心配。
- ・独居の高齢者、身体の不自由な人が避難場所までどの方法で行くか？

【食料や飲料水、日用品の確保】

- ・困らない食料、日用品が準備できるかどうか。
- ・避難所に行った場合、食料や水等の備えがあるかどうか。

【火災の発生等】

- ・火事に巻き込まれないか。
- ・化学工場が近いので、爆発などが不安である。

【避難生活への不安】

- ・避難所生活の不備（感染性の病気やトイレ、プライバシーの侵害など）
- ・避難所での暮らしによる、子どもたちへの生活、精神的な影響
- ・避難生活での健康対策

【その他】

- ・主要道路の崩壊
- ・全体的に大パニックになり、交通渋滞などが心配。
- ・携帯電話の電波がつかないこと。サーバーのダウン
- ・土地の液状化現象

大地震の際に一番心配なことについては、「家族の安否」と「安否確認の方法」と答えた方がたいへん多くなっていました。その他、「住宅の倒壊、損壊」「ライフラインの確保」「津波の発生」等が多く挙げられていました。

問14. 防災・減災に関するご意見があれば自由にご記入ください。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

- ・防災マップを見たが、避難場所のほとんどが小中学校になっている。自分の住んでいる地域から見れば、小中学校は川の近くにあり、我が家の方が土地の高さもあり安全だと思います。避難場所の地理などをよく見て、再考してほしい。
- ・新居浜市の災害予測（どの地域でどれくらいの震度、津波が来るか）の明確な冊子、災害時の避難方法、役立つ知識などを載せた冊子をつくってほしい。
- ・家具の固定具、ガラス飛散防止フィルム、二枚窓などの費用補助、助成をしてもらえませんか。また、学校関係は避難所にもなるので、バリアフリートイレや洋式トイレの導入なども検討してほしい。和式は小さい子どもたちやお年寄りには使えません。
- ・家具の固定がどの程度有効かわからない。ガラスのシールだけでも、と思いつつ実行できないでいます。意識の啓発も必要なのでしょう。
- ・家族が全員一緒の時ならまだしも、バラバラの時にどのように避難するのか、大人はともかく子どもなど、教育現場に任せられるのか？など疑問や不安は多い。
- ・自分の町、自分の命は自分で守る取り組みが重要、そのためには自主防災組織が重要、そしてその組織が十分機能できるよう、訓練と役割分担の明確化、ハザードマップの整備も必要。家庭、住民一人ひとりが、常に意識を持つことが大切です。
- ・災害を皆無とするのは不可能に近いので、災害を想定した二次災害の防止による減災について、防災訓練すべきと考えています。そのための防災訓練、例えば避難時は自分の身を自分で守る、余裕があれば手助けをするとかの意識とか、避難時のガスの元栓を閉めるとか、電気もブレーカーを落とす等の防災の基本を徹底し、身に着けることが大切だと思います。
- ・自治会、公民館等で防災訓練を行っている時は、もっと多くの人に参加して防災に関心を持ってほしい。
- ・災害の少ない地域なので、日頃の心構えができていない。防災意識を高めるために、地区単位で訓練を実施することで、少しでも減災に繋がると思う。常に、自分の命は自分で守ることを心がけておく必要がある。
- ・防災、減災に関するイベントや訓練時などにもポイントシール配布などあれば少しは興味を持つ人もいると思う。
- ・自治会単位及び各小学校単位で防災訓練や防災への意識付けを行っているが、まだまだ訓練に参加する人が少ないように思います。もっと防災意識を高めるために、各地で実際に起こった地震発生から避難状況及び避難所での生活等の映像を観ることで、訓練の大切さや日頃からの意識付けの重要性を認識できるようになればと思います。
- ・阪神大震災の時に被災しました。2階建の家が修理不能の半壊状態となり、玄関は陥没、家全体がゆがみ、窓等開けることもできませんでした。水の補給は3日後に2キロ先の小学校にやっと来ました。大地震の際は心身パニックになり、泣きながら歩いている人も見かけました。日頃からの十分な避難訓練が必要です。新居浜は甘い。
- ・家族に小さい子や高齢者がいるので心配です。経験したことがないのでなかなか想定して準備ができない。地域で集まって、話し合いなどあれば参加したい。
- ・災害時にコンビニ等で食料を無料で提供してもらえるようにしてほしい。下水道上に仮設トイレが設置できる設備をつくってほしい。
- ・津波対策と耐震診断をしっかりとしてほしい。

- ・避難時の移動に使う東西南北に延びる幅の広い道路の整備が必要。
- ・防災のための備蓄品を持つために行政からの補助をしてもらいたい。
- ・行政が分担する部分と、個人が責任を持って準備しておくことを市民にわかりやすく知らせてほしい。
- ・大規模な地震が起きた時、日中子どもが学校にいる時、固定電話や携帯電話が混雑してつながらない時の安否の確認方法で良い案があればいいのですが。
- ・地震直後に、テレビ、スマホ、ラジオ、放送などいろんなメディアで現状や行動を具体的に指導してほしい。
- ・普段からの近隣所との助け合いが大切。
- ・自分としては個人でできる防災対策をあまりにも軽く見過ぎていました。今後はまず非常食など、すぐにできそうなことから準備を心がけたいです。防災訓練などは自治会や公民館の役員の人以外の一般の人たちへの参加を増やしていくような工夫も必要だと思います。

<まとめ>

今回のアンケートでは 154 人（20 代 8 人、30 代 20 人、40 代 30 人、50 代 22 人、60 代 45 人、70 代 26 人、80 代以上 3 人）にご回答いただきました。

7 割ほどの方が家族で災害発生時の避難場所や安否確認手段を決めているようです。

家の身近な危険情報や避難場所を確認できるハザードマップについては、9 割以上の方が目にしていますが、避難場所の確認などでの活用は 5 割弱にとどまっているようです。また、災害用の備蓄については、8 割弱の方が多少の備蓄をされていますが、こういったものを備蓄すればよいか熟知されている方は 16.9%と少ないようです。

地震対策として、家具の固定やガラスの飛散防止の対策ができている方は半数もいらっしゃらないことがわかりました。また、小学校区単位での防災訓練への参加率についても 5 割ほどにとどまっています。

身近に避難の際に援護が必要な方がいる方は半数以上もいらっしゃるわかりました。

行政からの防災に関する情報については、よくわからない（48.1%）と不十分である（25.3%）と答えた方が合わせて 7 割を超えており情報発信について考えさせられる結果となりました。

問 11 で不十分と答えた方の意見欄及び自由記入欄でいただいた意見からは、日ごろからの備えや発災時及び被災後のそれぞれの場面でどのような情報を必要としているかなどがわかりましたので、今後の業務に活かしたいと考えております。

（担当課：防災安全課）

テーマ⑧ これからの新居浜市のまちづくりについて

【調査趣旨】

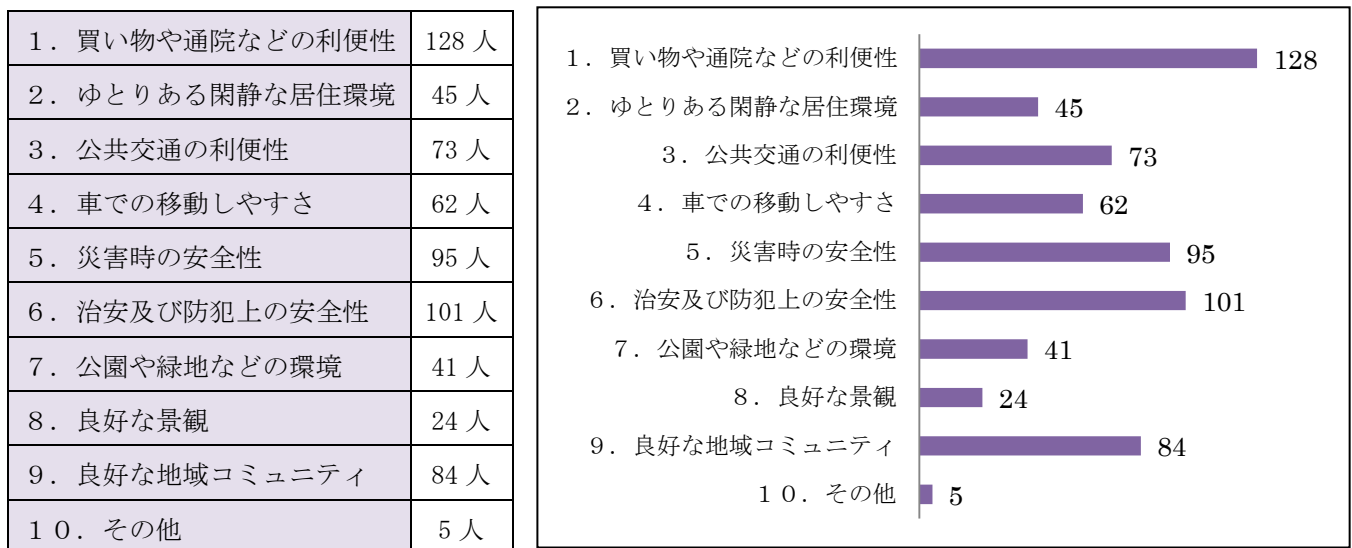
新居浜市では、高齢化、人口減少に対応した持続可能なまちづくりを目指した計画（立地適正化計画）の策定を予定しています。このアンケート調査はこうしたまちづくりを進めていく資料として、現在の暮らしやすさの評価、歩いて行ける範囲に必要な施設や機能、住み替えに関する市民の皆さんの考え方を把握することを目的としています。

（担当課：都市計画課）

（※問1はモニター属性特定のための設問であり、省略）

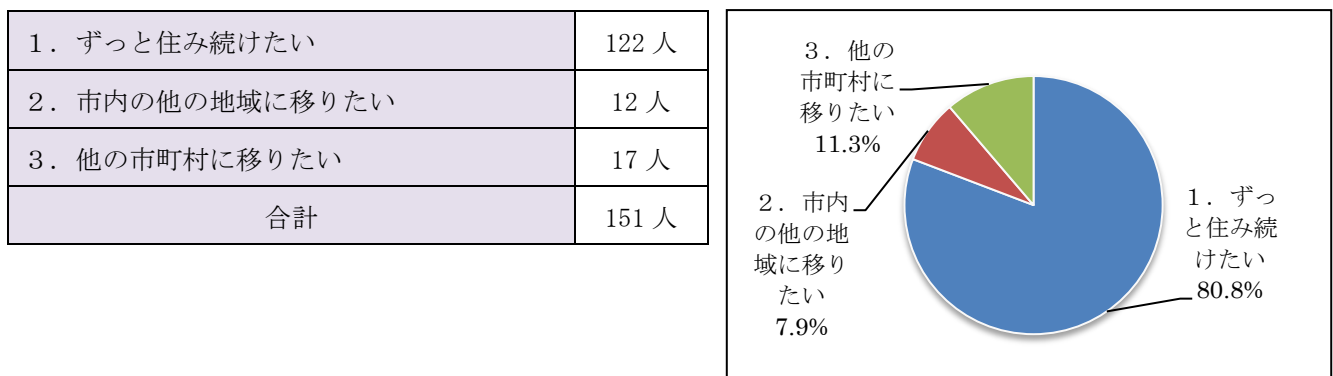
問2. 住まいや暮らしについて、お伺いします。

あなたが居住環境として重要と考える項目は何ですか。（複数選択）



「1. 買い物や通院などの利便性」（128人）と答えた方が最も多いほか、「6. 治安及び防犯上の安全性」（101人）、「5. 災害時の安全性」（95人）、「9. 良好な地域コミュニティ」（84人）などが多く挙げられています。

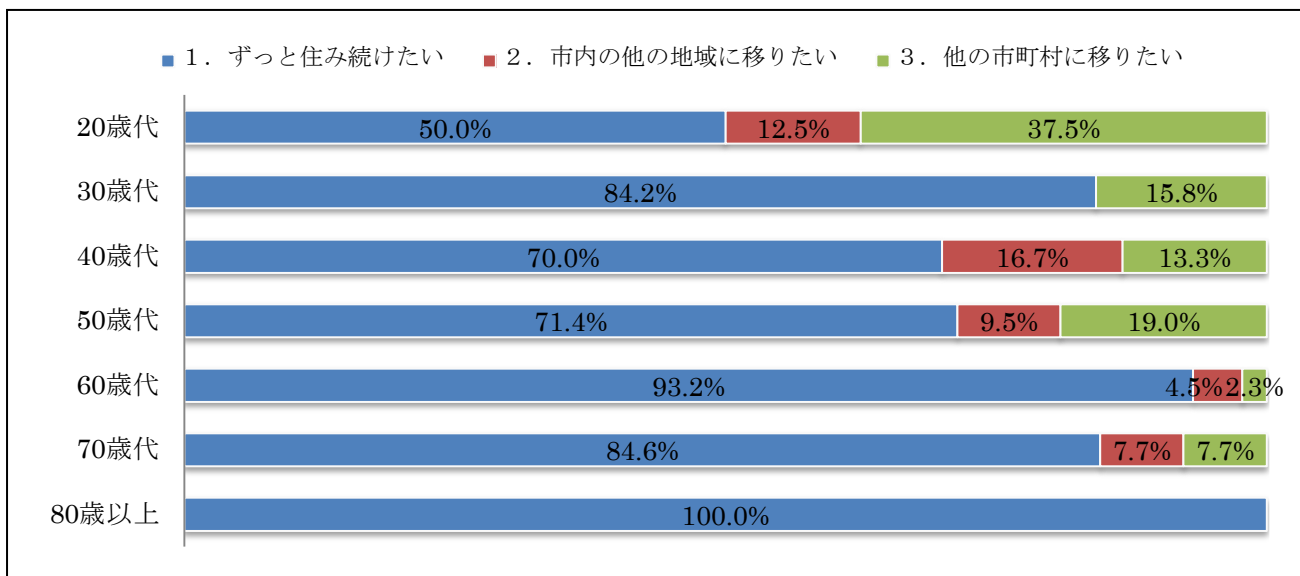
問3. 今後も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。（1つ選択）



「1. ずっと住み続けたい」と答えた方が最も多く（80.8%）、全体の8割以上を占めています。

【クロス集計（年代別）】

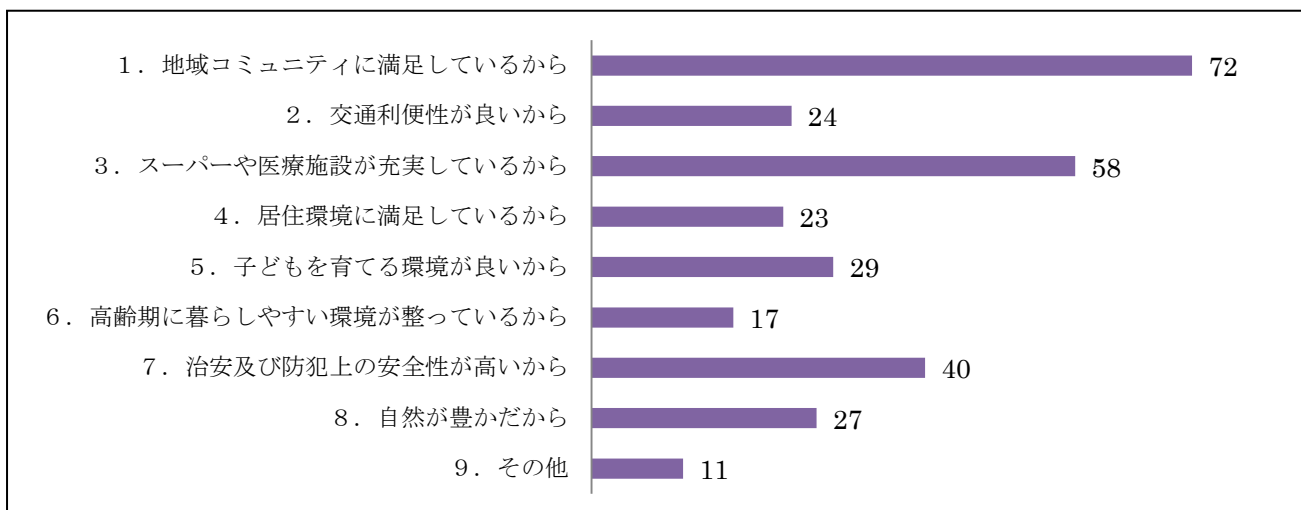
	1. ずっと住み続けたい	2. 市内の他の地域に移りたい	3. 他の市町村に移りたい	合計
20歳代	4人	1人	3人	8人
30歳代	16人	0人	3人	19人
40歳代	21人	5人	4人	30人
50歳代	15人	2人	4人	21人
60歳代	41人	2人	1人	44人
70歳代	22人	2人	2人	26人
80歳以上	3人	0人	0人	3人
合計	122人	12人	17人	151人



年代別に見ると、「1. ずっと住み続けたい」と答えた方の割合は、60～80歳代で特に高くなっており、「3. 他の市町村に移りたい」と答えた方の割合は、20～50歳代で高くなっていることがわかります。

問4. 問3で「1. ずっと住み続けたい」とお答えした方にお伺いします。住み続けたいと思う主な理由は何ですか。（3つまで選択）

1. 住んでいる地域コミュニティ（近所づきあい）に満足しているから	72人
2. 駅やバス停に近いなど、交通利便性が良いから	24人
3. スーパーや医療施設が近所に充実しているから	58人
4. 街並みや周辺道路などの居住環境に満足しているから	23人
5. 学校が近い、公園が多いなど、子どもを育てる環境が良いから	29人
6. 医療や福祉サービスなど、高齢期に暮らしやすい環境が整っているから	17人
7. 治安及び防犯上の安全性が高いから	40人
8. 自然が豊かだから	27人
9. その他	11人



「1. 住んでいる地域コミュニティ（近所づきあい）に満足しているから」（72人）と答えた方が最も多いほか、「3. スーパーや医療施設が近所に充実しているから」（58人）、「7. 治安及び防犯上の安全性が高いから」（40人）などが、住み続けたい理由として、多く挙げられています。

問5. 問4で「9. その他」とお答えした方にお伺いします。住み続けたい理由を記入してください。（自由記入）

- ・家があるから、特別なことがない限り移動することがない。
- ・不便な地域ではあるが、実家が近いため子育てをしやすい。
- ・住み慣れているから。不満はいろいろあるが、一戸建てを売って引っ越しするのは難しい。
- ・子どもの頃からずっと住んでいるので住み慣れている。今さら他のところではなじめない。
- ・自分が生まれ育った地で、慣れ親しんでいるから。近所に実家もあり、子育て環境に適しているから。
- ・先祖伝来の土地等があるため。
- ・新居浜太鼓祭りが大好きだから。
- ・就労場所があるから。転職するのは困難だと思う。
- ・自然災害等が少なく住みやすいと感じています。

問6. 問3で「2. 市内の他の地域に移りたい」、「3. 他の市町村に移りたい」とお答えした方にお伺いします。移りたい先の具体的な地域、市町村名を記入してください。（自由記入）

【市内の他の地域】

- ・庄内町 ・一宮町 ・郷 ・本郷 ・浮島、垣生 ・神郷あたり

【他の市町村】

- ・松山市（4人回答） ・東温市（2人回答） ・西条市 ・松山市か砥部町のあたり
- ・岡山市、倉敷市 ・神戸市 ・長野県佐久穂町 ・愛知県飛島村 ・東京都立川市
- ・関東、九州など ・広島、京都、大阪、神戸、東京などの大都市

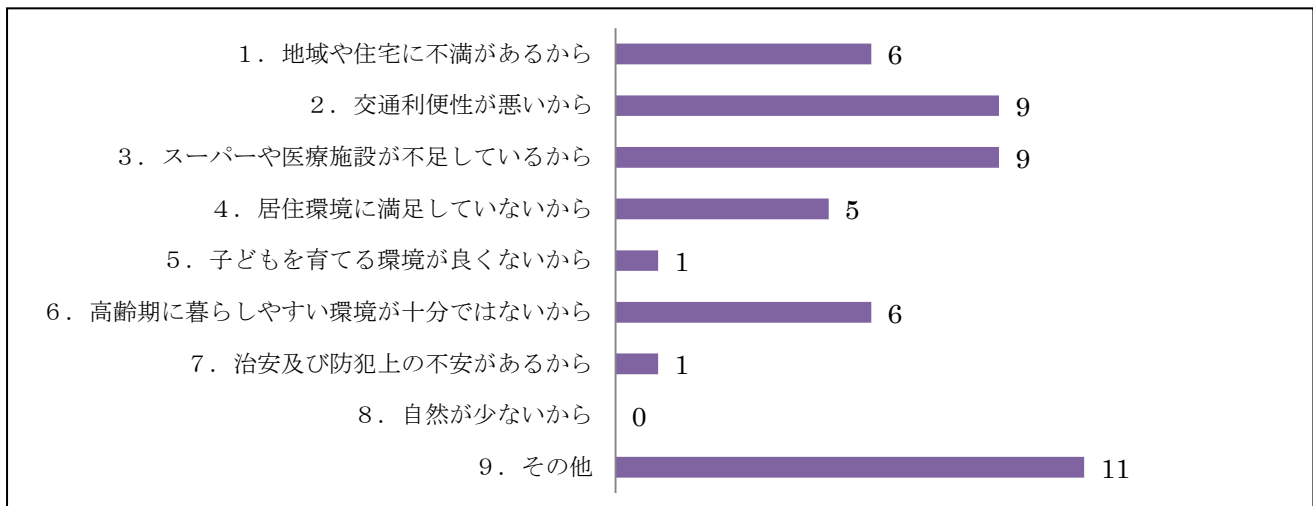
【その他の回答】

- ・具体的にはなし（4人回答）
- ・新居浜市以外ならどこでもよい。希望は国外。

県内の他市町村の中では、「松山市」、「東温市」が複数の方から挙げられていました。また、県外の他市町村の中では、大都市圏のほか、「日本一裕福な村」とも言われる「愛知県飛島村」を挙げる方もいました。

問7. 問3で「2. 市内の他の地域に移りたい」、「3. 他の市町村に移りたい」とお答えした方にお伺いします。他の地域や市町村に移りたいと思う主な理由は何ですか。(3つまで選択)

1. 住んでいる地域や住宅に不満があるから	6人
2. 駅やバス停から遠いなど、交通利便性が悪いから	9人
3. スーパーや医療施設が近所に不足しているから	9人
4. 街並みや周辺道路などの居住環境に満足していないから	5人
5. 幼稚園・保育園が遠い、公園が少ないなど、子どもを育てる環境が良くないから	1人
6. 医療や福祉サービスなど、高齢期に暮らしやすい環境が十分ではないから	6人
7. 治安及び防犯上の不安があるから	1人
8. 自然が少ないから	0人
9. その他	11人



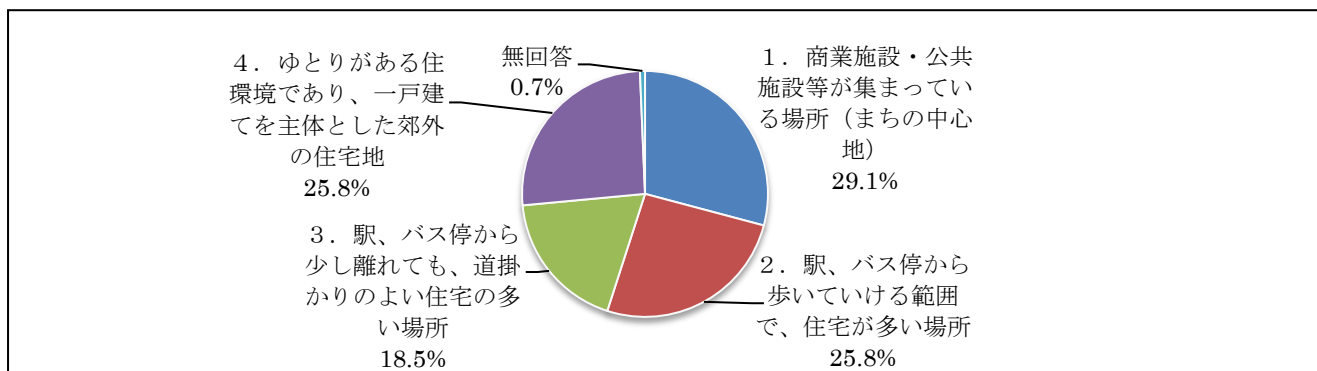
「1. その他」(11人)と答えた方が最も多いほか、「2. 駅やバス停から遠いなど、交通利便性が悪いから」(9人)、「3. スーパーや医療施設が近所に不足しているから」(9人)などが、他に移りたい理由として、多く挙げられています。

問8. 問7で「9. その他」とお答えした方にお伺いします。住み続けたくない理由を記入してください。(自由記入)

- ・病院が不足している。デパートやコンサートホールがない。
- ・以前に住んでいた松山市の方が色んな点で便利が良かった。
- ・現在住んでいる家は、川が増水して床下浸水した経験があり怖い。春先や台風時は風が強く吹くので怖い。
- ・もともと地元ではないので、あまり住みたいと思わない。
- ・住んでいるところが山のふもとなので寒い。交通が不便だから。
- ・現在住んでいる地域はいいところで不満はないが、長い人生を過ごす上で、他の地域にも住んでみたい。また、いずれは実家の近くに移りたいと思うかもしれないから。
- ・そもそも話ですが、新居浜が好きではない。地方祭が嫌い。

問9. あなたが住みたいと思う場所は、どのような地域ですか。(1つ選択)

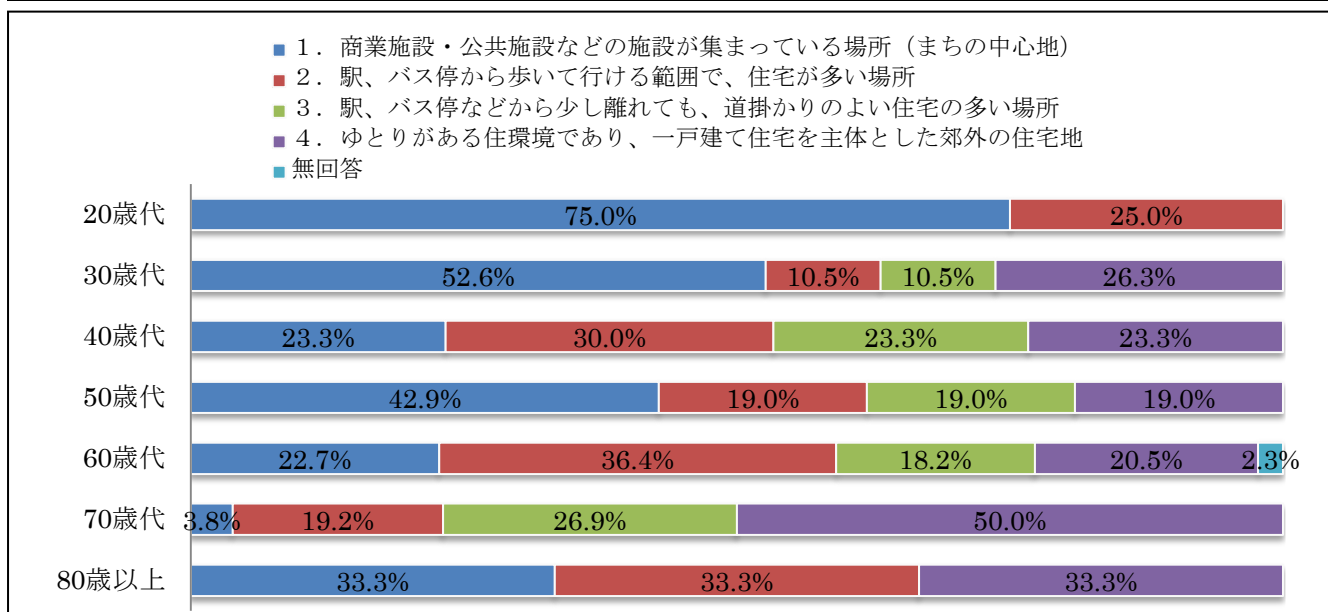
1. 商業施設・公共施設などの施設が集まっている場所（まちの中心地）	44人
2. 駅、バス停から歩いていける範囲（1km未満）で、住宅が多い場所	39人
3. 駅、バス停などから少し離れても、道掛かりのよい住宅が多い場所	28人
4. ゆとりがある住環境であり、一戸建て住宅を主体とした郊外の住宅地	39人
無回答	1人
合計	151人



「1. 商業施設・公共施設などの施設が集まっている場所（まちの中心地）」と答えた方（29.1%）が比較的多いものの、「4. ゆとりがある住環境であり、一戸建て住宅を主体とした郊外の住宅地」と答えた方（25.8%）も多く、全体として見ると、意見が分かれています。

【クロス集計（年代別）】

	1	2	3	4	無回答	合計
20歳代	6人	2人	0人	0人	0人	8人
30歳代	10人	2人	2人	5人	0人	19人
40歳代	7人	9人	7人	7人	0人	30人
50歳代	9人	4人	4人	4人	0人	21人
60歳代	10人	16人	8人	9人	1人	44人
70歳代	1人	5人	7人	13人	0人	26人
80歳以上	1人	1人	0人	1人	0人	3人
合計	44人	39人	28人	39人	1人	151人

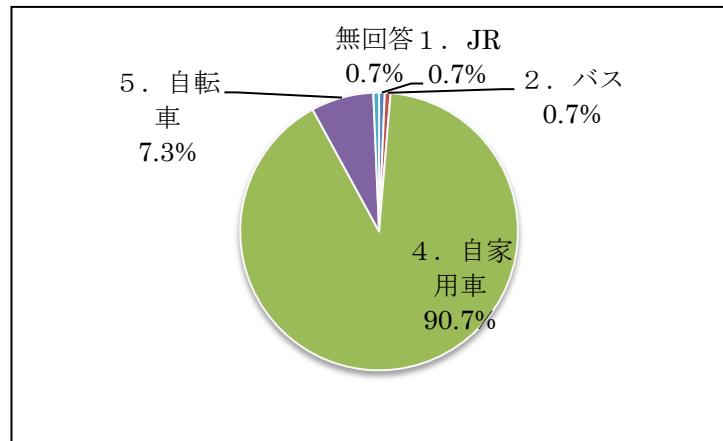


年代別に見ると、「1. 商業施設・公共施設などの施設が集まっている場所（まちの中心地）」と答えた方の割合は、20～30歳代の若年世代で特に高くなっていることがわかります。

問10. 交通手段について、お伺いします。

現在、もっとも多く利用する交通手段は何ですか。（1つ選択）

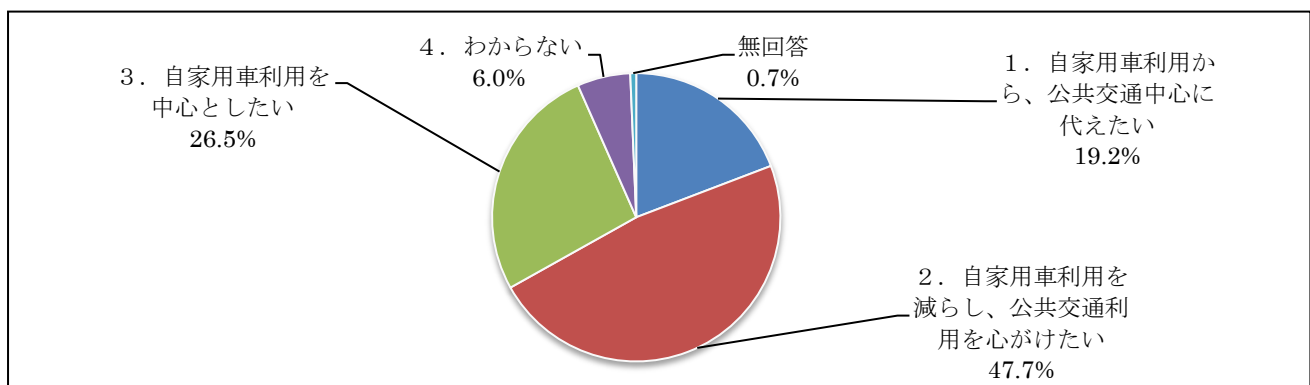
1. JR	1人
2. バス	1人
3. タクシー	0人
4. 自家用車	137人
5. 自転車	11人
6. 徒歩	0人
7. その他	0人
無回答	1人
合計	151人



「4. 自家用車」（137人）と答えた方が最も多く、全体の約9割を占めています。

問11. もし、公共交通の利便性が高い場所へ移り済んだ場合、移動手段についてどのように考えますか。（1つ選択）

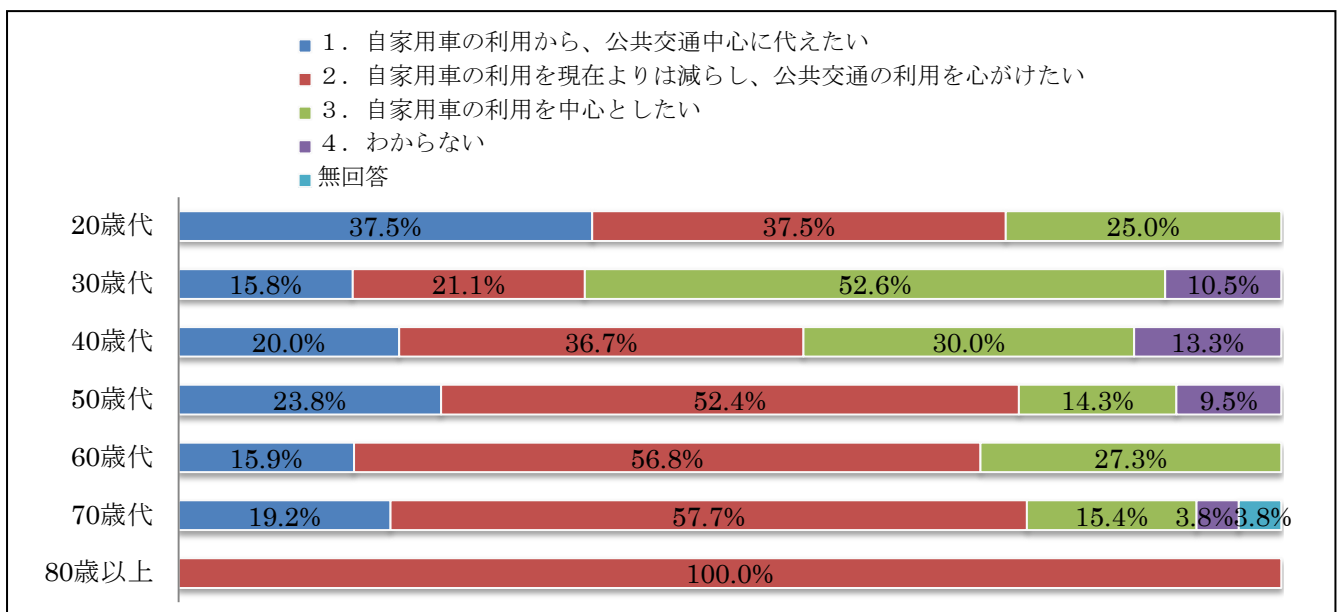
1. 自家用車の利用から、公共交通中心に代えたい	29人
2. 自家用車の利用を現在よりは減らし、公共交通の利用を心がけたい	72人
3. 自家用車の利用を中心としたい	40人
4. わからない	9人
無回答	1人
合計	151人



「1. 自家用車の利用から、公共交通中心に代えたい」（19.2%）と「自家用車の利用を現在よりは減らし、公共交通の利用を心がけたい」（47.7%）を合わせると、全体の6割以上が公共交通の利便性が高い場所へ移り住んだ場合は、自家用車中心の移動手段を見直したいと考えていることがわかりました。

【クロス集計（年代別）】

	1	2	3	4	無回答	合計
20歳代	3人	3人	2人	0人	0人	8人
30歳代	3人	4人	10人	2人	0人	19人
40歳代	6人	11人	9人	4人	0人	30人
50歳代	5人	11人	3人	2人	0人	21人
60歳代	7人	25人	12人	0人	0人	44人
70歳代	5人	15人	4人	1人	1人	26人
80歳以上	0人	3人	0人	0人	0人	3人
合計	29人	72人	40人	9人	1人	151人

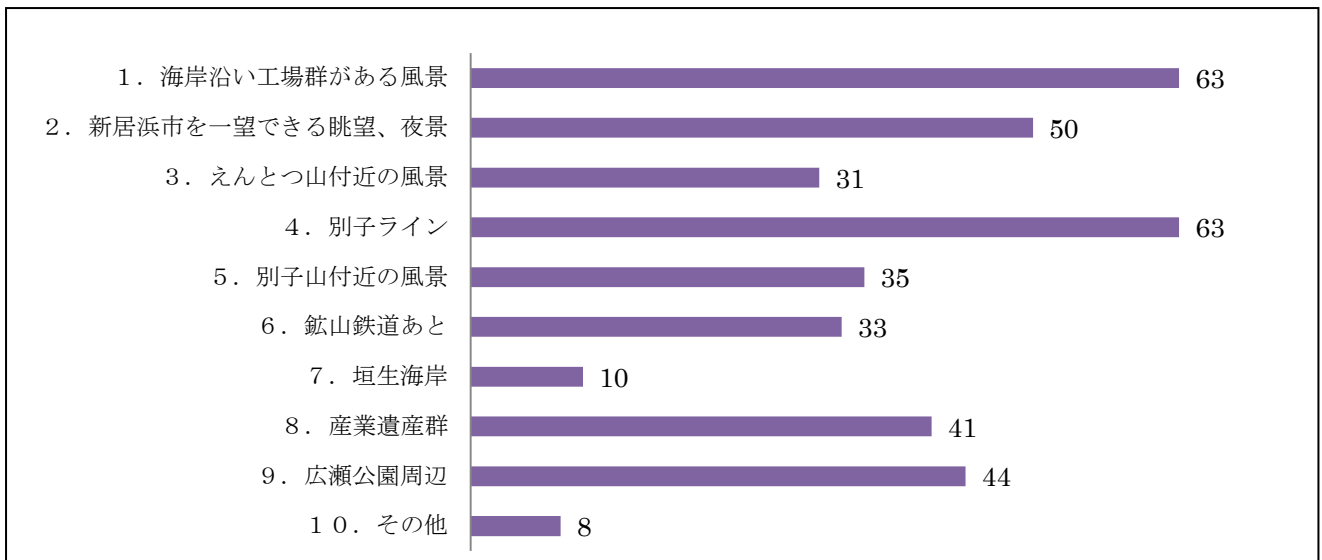


年代別に見ると、20歳代および50～80歳代の世代で、「1. 自家用車の利用から、公共交通中心に代えたい」または「自家用車の利用を現在よりは減らし、公共交通の利用を心がけたい」と答えた方の割合が高くなっています。

問12. まちの景観について、お伺いします。

新居浜市らしい魅力ある景観だと思うものは何ですか。（3つまで選択）

1. 海岸沿い工場群がある風景	63人
2. 新居浜市を一望できる眺望、夜景	50人
3. えんとつ山付近の風景	31人
4. 別子ライン	63人
5. 別子山付近の風景	35人
6. 鉱山鉄道あと	33人
7. 垣生海岸	10人
8. 産業遺産群	41人
9. 広瀬公園周辺	44人
10. その他	8人



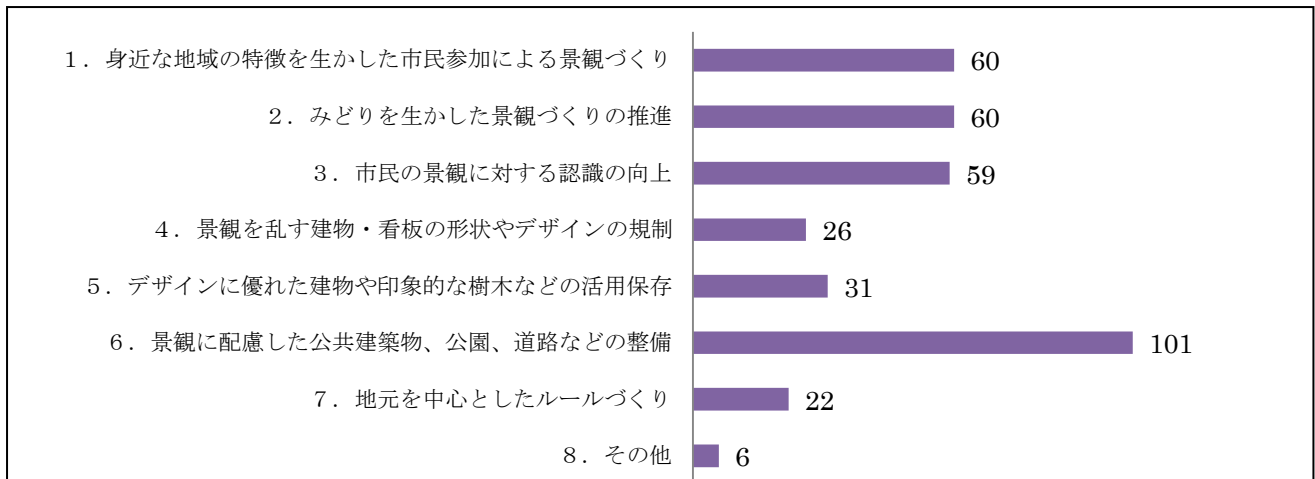
「1. 海岸沿い工場群がある風景」(63人)、「4. 別子ライン」(63人)、「2. 新居浜を一望できる眺望、夜景」(50人)などが多く挙げられています。

問13. 問12で「10. その他」とお答えした方にお伺いします。魅力ある景観だと思うものを記入してください。(自由記入)

- ・川(国領川)、山、そして田園風景
- ・垣生山の山頂からの眺望
- ・滝の宮公園
- ・マリンパーク
- ・祭りのシーン
- ・別子ラインに、年によって雪と桜を同時に見ることができる場所があることをご存じでしょうか。とても感動しました。北国では当たり前だと思いますが・・・。
- ・「5. 別子山付近の風景」と関連して、清滝の整備を考えてほしい。紅葉時期の観光スポットになると思う。

問14. 魅力ある景観を守り向上していくため、必要だと思う取組みは何ですか。(3つまで選択)

1. 身近な地域の特徴を生かした、市民参加による景観づくり	60人
2. 街なかのみどりを増やすなど、みどりを生かした景観づくりの推進	60人
3. 景観イベントの開催など、市民の景観に対する認識の向上	59人
4. 景観を乱すような建物・看板の形状やデザインの規制	26人
5. デザインに優れた建物や印象的な樹木などの活用(保存・保全)	31人
6. 景観に配慮した公共建築物、公園、道路などの整備	101人
7. 地元を中心としたルールづくり	22人
8. その他	6人



「6. 景観に配慮した公共建築物、公園、道路などの整備」(101人)と答えた方が最も多いほか、「1. 身近な地域の特徴を生かした、市民参加による景観づくり」(60人)、「2. 街なかのみどりを増やすなど、みどりを生かした景観づくりの推進」(60人)、「3. 景観イベントの開催など、市民の景観に対する認識の向上」(59人)などが、多く挙げられています。

問15. 問14で「8. その他」とお答えした方にお伺いします。必要だと思う取り組みを記入してください。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

- ・瀬戸内の町として、垣生から多喜浜、黒島、荷井への海岸部の魅力ある景観が大切。西海岸の工場群と東海岸の瀬戸内らしいきれいな海岸が両立できれば、もっと魅力ある新居浜をアピールできると思う。現在は、東海岸がごみが多く、汚い。大島を含め、きれいな海と海岸は観光客にとっては、やはり不可欠です。
- ・空き店舗、閉店後の商業施設が目立ち、活気が不足している印象を受ける。そういった施設の有効利用や対策をするだけでも、景観の印象は変わると思う。
- ・市道・県道・国道を問わずごみのない道、雑草の手入れのできる道、市民の自主奉仕できる市
- ・道路にごみや雑草が多い。特に市の主要道路である楠中央通り。県道も含まれているとは思いますが、他市から来る人はそうは思ってくれないので、景観を常に美しくしてほしい。
- ・広瀬公園や滝の宮公園に散歩によく出かけます。四季を感じ、歴史を感じながら、色々な方々が散策されていて、老いも若きも安全な整備された公園は市民にとっては大切なものと思います。
- ・現在市で取り組んでいるまち美化の推進について、きれいなまちを目指すことは市外からの来訪者を迎える唯一具体的なおもてなしです。また、まちなみ景観の主役の一つである街路樹については、樹種の選定、剪定などの維持管理、道路植栽の除草や手入れなど難しい問題が多い一方、近年の自転車数の増加等に伴い、歩道エリアの確保と整備が求められるようになっており、植栽部分の歩道化ややりすぎた街路樹の植え替えなどが必要となってきているかもしれません。歩道での交通事故防止の対策を早目に検討、実施いただければと思います。
- ・道路の中央分離帯や並木について、熟慮して長期的な展開をしてほしい。

<まとめ>

新居浜市では、人口減少、超高齢社会に対応した持続可能なまちづくりを目指した計画（立地適正化計画）の策定を予定しています。このアンケート調査はこうしたまちづくりを進めていく資料とすることを目的として実施しました。

住みやすさ・暮らしやすさについて、住環境として重要であると考えているのは、買い物や通院などの利便性が最も重視されており、次いで防犯や災害の安全性を重視している結果となっています。また、現在お住まいの地域への定住意向については、ずっと住み続けたいと思われる方が8割を占めています。特に高齢の方々が住み続けたいと回答し、理由としては地域のコミュニティに満足していること、スーパーや医療施設の充実を挙げられています。住みたいと思う場所については、まちの中心部、駅・バス停の付近、郊外など、どの地域においても意見が分かれています。傾向としては若い人がまちの中心、高齢の人が郊外という傾向があります。

交通手段については、9割の方が現在自家用車をもっとも多く利用されており、公共交通を利用される方はわずか1.4%ほどでした。しかし、公共交通の利便性が高い地域へ移り住んだ場合には、7割弱の人が公共交通を中心に利用したい又は利用を心がけたいと回答されています。特に高齢の人にその傾向が強く、公共交通の潜在的なニーズはあると考えられます。

魅力ある景観の向上については、公共建築物などの整備が多く挙げられ、規制やルールづくりについては、必要性を感じていないようです。

今後、人口が減少し高齢化が進んでも、現在の暮らしやすさが維持できるようなまちづくりが必要であると考えています。そのために策定を目指している「立地適正化計画」にも、皆様の意見を参考にさせていただきます。

（担当課：都市計画課）



©NPO 法人新居浜まちゆり隊